

第2学年

令和2年度

シラバス

赤門鍼灸柔整専門学校

柔道整復科

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	阿部 康一	学科・年	柔道整復医療科 2年
科目名	心理学	曜日・時間	月曜日 10:50～

【授業概要・目標】

人間理解のための「心の構造と機能」の基本的研究の成果を講じ、医療現場におけるクライアント理解のためのコミュニケーション心理学を言語研究の領域からアプローチする。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	心理研究の歴史展開
2	脳機能の概略
3	脳と心の関係
4	脳と心の進化と発達
5	脳と知覚・感覚
6	体格の研究の歴史
7	性格の構成要素
8	性格の検査方法
9	性格検査(テスト)の実際
10	知能の研究の歴史
11	知能の構成要素
12	知能の測定方法
13	知能検査(テスト)の実際
14	学習の研究の歴史
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	学習と記憶の過程
2	学習の企画化と教育
3	言語の発達と心理的変容
4	思考と言語表現の関連
5	言語コミュニケーション
6	非言語コミュニケーション
7	対人コミュニケーション
8	対社会(集団)コミュニケーション
9	情報社会におけるコミュニケーション
10	心理的正常と異常
11	心理障害と心理療法
12	心理障害とカウンセリング
13	カウンセリングの理論と実際
14	心身医学と心理学
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	定期試験の成績による評価
授業の進め方	講義において、DVD(VTR)視聴、簡易実験、検査(テスト)を実施。
注意 (学生に望むこと)	配布される資料・図版等のプリント類は、毎時持参すること。
テキスト・参考書	印刷物として配布。

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	石垣 寛高 (実務経験のある教員)	学科・年	柔道整復医療科 2年
科目名	柔道整復応用理論Ⅳ	曜日・時間	月曜日 13:10～

【授業概要・目標】

柔道整復に必要な体の構造・機能を習得する。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	人体の構造・機能-1
2	人体の構造・機能-2
3	人体の構造・機能-3
4	人体の構造・機能-4
5	人体の構造・機能-5
6	人体の構造・機能-6
7	人体の構造・機能-7
8	人体の構造・機能-8
9	人体の構造・機能-9
10	人体の構造・機能-10
11	人体の構造・機能-11
12	人体の構造・機能-12
13	人体の構造・機能-13
14	人体の構造・機能-14
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価・点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	人体の構造・機能-15 柔整基礎-1
2	人体の構造・機能-16 柔整基礎-2
3	人体の構造・機能-17 柔整基礎-3
4	人体の構造・機能-18 柔整基礎-4
5	人体の構造・機能-19 柔整基礎-5
6	人体の構造・機能-20 柔整基礎-6
7	人体の構造・機能-21 柔整基礎-7
8	人体の構造・機能-22 柔整基礎-8
9	人体の構造・機能-23 柔整基礎-9
10	人体の構造・機能-24 柔整基礎-10
11	人体の構造・機能-25 柔整基礎-11
12	人体の構造・機能-26 柔整基礎-12
13	人体の構造・機能-27 柔整基礎-13
14	人体の構造・機能-28 柔整基礎-14
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価・点検

評価方法	小テスト、筆記試験、課題、授業態度
授業の進め方	講義、作業
注意 (学生に望むこと)	小テストを実施するので毎回復習をすること。また課題も出すので期日までに提出すること。
テキスト・参考書	解剖学、柔道整復理学理論編

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	相澤 久敏	学科・年	柔道整復医療科 2年
科目名	柔道整復応用理論Ⅲ	曜日・時間	月曜日 14:50～

【授業概要・目標】 下肢の骨折、脱臼について理解を深め、柔道整復師国試に合格すること。 合わせて、医療人としての素養を身につけること。
--

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	骨盤骨単独骨折
2	骨盤骨輪骨折
3	骨盤骨輪骨折
4	大腿骨近位端骨折
5	大腿骨近位端骨折
6	大腿骨骨幹部骨折
7	大腿骨遠位端骨折
8	大腿骨遠位端骨折
9	膝蓋骨骨折
10	下腿骨近位端部骨折
11	下腿骨近位端部骨折
12	下腿骨骨幹部骨折
13	下腿骨骨幹部骨折
14	下腿骨遠位端部骨折および足関節脱臼骨折
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	下腿骨遠位端部骨折および足関節脱臼骨折
2	下腿骨遠位端部骨折および足関節脱臼骨折
3	下腿骨遠位端部骨折および足関節脱臼骨折
4	足根骨骨折
5	足根骨骨折
6	足根骨骨折
7	中足骨骨折
8	足指骨骨折
9	股関節脱臼
10	股関節脱臼
11	股関節脱臼
12	膝蓋骨脱臼
13	膝蓋骨脱臼
14	足部の脱臼
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	前期、後期のペーパー試験、実技試験、出席日数、授業態度など総合的に評価をする。
授業の進め方	柔道整復学理論編、柔道整復学実技編、パワーポイントを使用し、実技などと、小テスト等を行いながら進めていく。
注意 (学生に望むこと)	授業前にノートを作成し、予習、復習をすること
テキスト・参考書	柔道整復学実技編を持参のこと

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	豊嶋 良一	学科・年	柔道整復医療科 2年
科目名	柔道整復応用理論Ⅱ	曜日・時間	火曜日 9:10～

【授業概要・目標】	
上肢の脱臼(理論・実技)①症状、②合併症、③整復障害、④経過と予後について実技を含み徹底する。	

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	胸鎖関節脱臼(理論)
2	肩鎖関節脱臼(理論)
3	肩関節脱臼 分類、前方脱臼
4	肩関節脱臼 前方脱臼、その他
5	肩関節脱臼(整復法)ヒポクラテス法、 コッヘル法、ゼロポジション法
6	胸鎖・肩鎖・肩関節脱臼 固定具の作成と固定
7	肩部負傷部 固定具の作成
8	肩関節脱臼 整復・固定試験
9	固定の意味 提肘の意味
10	胸鎖・肩鎖・肩関節 総復習
11	上肢、胸鎖・肩鎖・肩関節脱臼
12	胸鎖・肩鎖・肩関節脱臼 問題提起して総復習、小テスト
13	肘関節脱臼(総論)
14	肘関節脱臼 後方脱臼
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	肘関節脱臼(理論)
2	前腕両骨後方脱臼(理論) 前腕両骨外側脱臼(理論)
3	前腕両骨後方脱臼 整復・固定
4	前腕脱臼 整復・固定
5	前腕脱臼 整復・固定
6	肘関節後方脱臼 実技試験
7	手関節部の脱臼(理論) 遠位橈尺関節脱臼(理論)
8	橈骨手根関節脱臼(理論)
9	手関節部脱臼 包帯固定実技
10	手根中手関節(理論)
11	手根中手関節 整復・固定
12	手指部 整復・包帯固定
13	指節間関節脱臼(MP関節脱臼) サラン包帯と綿包帯について実技
14	遠位指節間(DIP)関節脱臼 理論・固定
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	筆記論述、実技によって決定する。
授業の進め方	教科書に添い臨床的見地を交え理論実技を行う。
注意 (学生に望むこと)	社会的倫理観を持った医療人になるよう教示していく。
テキスト・参考書	その都度、教務と話し合いをもってすすめる。

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	小原 賢	学科・年	柔道整復医療科 2年
科目名	柔道Ⅱ	曜日・時間	前期) 火曜日 10:50～ 後期) 月曜日 9:10～

【授業概要・目標】

柔道Ⅰに引き続き「投の形」の精度を上げ、約束乱取り練習を取り入れて授業を進めます。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	オリエンテーション、授業の進め方(礼法と回転運動(受身含む)は毎授業実施)
2	1年次習得内容復習及び練習
3	投の形 手技3本指導、練習
4	投の形 腰技3本指導、練習
5	投の形 足技3本指導、練習
6	約束乱取りについて (投技、打ち込み、投げ込み)
7	約束乱取りについて (投技、打ち込み、投げ込み)
8	投の形 手技3本、 約束乱取り指導、練習
9	投の形 腰技3本、 約束乱取り指導、練習
10	投の形 足技3本、 約束乱取り指導、練習
11	投の形、約束乱取り指導、練習
12	前期実技試験内容説明、練習
13	前期実技試験一①
14	前期実技試験(予備日)
15	前期実技試験評価点検、 柔道の歴史など(国試内容含む)

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	前期習得内容復習
2	前期習得内容復習
3	投の形 手技3本指導、練習
4	投の形 腰技3本指導、練習
5	投の形 足技3本指導、練習
6	投の形 手技3本、固技指導、練習
7	投の形 腰技3本、固技指導、練習
8	投の形 足技3本、固技指導、練習
9	投の形、約束乱取り指導、練習
10	投の形、約束乱取り指導、練習
11	投の形、約束乱取り指導、練習
12	後期実技試験内容説明、練習
13	後期実技試験一①
14	後期実技試験(予備日)
15	後期実技試験評価点検、 柔道の歴史など(国試内容含む)

評価方法	実技試験、授業態度、出席日数にて総合評価する。
授業の進め方	前期:「投の形」の高度な習得に重点を置きます。後期:認定実技審査に対応しての指導をします。
注意 (学生に望むこと)	柔道実技では怪我をしないように毎回真剣に取り組むことを望みます。
テキスト・参考書	「投の形」と投技(乱取り)は講道館のDVDを使用します。

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	豊嶋 良一	学科・年	柔道整復医療科 2年
科目名	社会保障制度(半期)	曜日・時間	後期) 火曜日 10:50～

【授業概要・目標】
 「社会保障制度の知識を含め 医療従事者」になるべき職業倫理、柔道整復師業務における療養費についても理解させる。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
◆	
15	

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	・社会保障とは ・職業倫理とは
2	1. 社会保障の3つの機能 2. あるべき社会と今後の社会保障
3	・社会保障の意義
4	・公的年金の意義 ・公的年金制度の仕組み
5	・療養費払い ・倫理と見識
6	・委任払い ・柔整療養費
7	・柔道整復師等における療養費
8	・柔道整復師委任払いと自由診療 ・混合診療の意味
9	職業倫理(医療・柔整)
10	社会保障制度と施術録 (施術の意味)
11	・医療従事者の職業倫理 ・職業倫理、生命倫理
12	・柔道整復師に必要な基本的 倫理観、患者への対応
13	・患者紹介 ・カルテの書き方(紹介状・礼状)
14	・社会保障と療養費と委任払いの 意義
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	筆記論述によって評価する。
授業の進め方	教科書に沿い、社会的状況を見極め進める。
注意 (学生に望むこと)	柔道整復師とは、医療人とは、について徹底する。
テキスト・参考書	その都度、プリント等を参考にする。

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	前期) 佐竹 正延 後期) 長岡 靖彦	学科・年	柔道整復医療科 2年
科目名	一般臨床医学Ⅱ	曜日・時間	水曜日 10:50～

【授業概要・目標】

内科学一般を講義する。各疾患の症状・診断・治療を聴いても、単なる羅列にしか聞こえないのであるが、出来るだけ、病態の成立機構と関連付けて理解できるよう努めたい。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	呼吸器疾患(症候、感染症)
2	呼吸器疾患(閉塞性疾患、がん)
3	呼吸器疾患(塞栓症・気胸)・ 循環器疾患(症候・心不全)
4	循環器疾患(虚血性疾患・不整脈)
5	循環器疾患(弁膜症・先天性疾患)
6	循環器疾患(高血圧・動静脈疾患)
7	消化器疾患(症候・食道疾患)
8	消化器疾患(胃・腸疾患)
9	消化器疾患(肝臓・胆道疾患)
10	消化器疾患(膵・腹膜疾患)
11	代謝疾患(糖尿病)
12	代謝疾患(肥満症)
13	内分泌疾患(症候・下垂体疾患)
14	前期範囲の過去国試問題の検討
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	内分泌疾患
2	内分泌疾患
3	血液造血器疾患
4	血液造血器疾患
5	腎・尿路疾患
6	腎・尿路疾患
7	腎・尿路疾患
8	腎・尿路疾患
9	神経疾患
10	神経疾患
11	感染症
12	感染症
13	リウマチ・膠原病・アレルギー
14	リウマチ・膠原病・アレルギー
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	出席と試験
授業の進め方	前期) プリントを配布説明し、一部を板書する。 後期) プレゼンテーションと板書を活用し講義形式で行う。
注意 (学生に望むこと)	前期) とにかく話を聴いてください。不足分は、インターネット検索で、かなりの情報を集められます。 後期) 予習をすること(最低でも教科書を読み、判らない用語を調べる)
テキスト・参考書	全国柔道整復学校協会 監修「一般臨床医学」医歯薬出版株式会社 (COMEDICAL用として)「シンプル内科学」寺野彰 編集 南江堂 7,020円 「わかりやすい内科学」井村裕夫 編集 文光堂 9,000円

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	笠原 岳人	学科・年	柔道整復医療科 2年
科目名	運動学	曜日・時間	水曜日 13:10～

【授業概要・目標】

柔道整復師として必要な運動器の構造と身体運動に関する知識の習得を目標とする。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	運動学の領域と目的・身体運動と力学
2	運動器・神経の構造と機能
3	上肢帯の構造と運動
4	肩関節の構造と運動①
5	肩関節の構造と運動②
6	肘関節と前腕の構造と運動①
7	肘関節と前腕の構造と運動②
8	手関節と手の構造と運動①
9	手関節と手の構造と運動②
10	股関節の構造と運動①
11	股関節の構造と運動②
12	膝関節の構造と運動①
13	膝関節の構造と運動②
14	前期講義のまとめ
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	足関節と足部の構造と運動①
2	足関節と足部の構造と運動②
3	体幹と脊柱の運動①
4	体幹と脊柱の運動②
5	体幹と脊柱の運動③
6	体幹と脊柱の運動④
7	顔面および頭部の構造と運動
8	姿勢①
9	姿勢②
10	歩行①
11	歩行②
12	運動発達
13	運動学習
14	後期講義のまとめ
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	試験の点数・レポート課題・出席状況等により総合的に判断する
授業の進め方	テキストと配布資料等を用いて行います
注意 (学生に望むこと)	毎回ごとに資料を配布するのでファイル等で管理すること
テキスト・参考書	運動学(医歯薬出版)

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	亀井 啓	学科・年	柔道整復医療科 2年
科目名	柔道整復応用理論 I	曜日・時間	水曜日 14:50～

【授業概要・目標】 テキストを基に理論、実技の習得。これに並行し同範囲の解剖知識の復習を徹底する。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	オリエンテーション、上肢の解剖
2	鎖骨骨折
3	鎖骨骨折
4	鎖骨骨折
5	鎖骨骨折
6	肩甲骨骨折
7	上腕骨近位端部骨折
8	上腕骨近位端部骨折
9	上腕骨骨幹部骨折
10	上腕骨骨幹部骨折
11	上腕骨遠位端部骨折
12	上腕骨遠位端部骨折
13	実技評価
14	実技評価
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	前腕骨近位端部骨折
2	前腕骨近位端部骨折
3	前腕骨骨幹部骨折
4	前腕骨骨幹部骨折
5	前腕骨遠位端部骨折
6	前腕骨遠位端部骨折
7	前腕骨遠位端部骨折
8	手指の骨折-1 解剖
9	手指の骨折-2 手根骨
10	手指の骨折-3 中手骨
11	手指の骨折-4 指骨
12	手指の骨折-5 マレットフィンガー
13	手指の骨折-6 後療法
14	実技評価
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	前期、後期筆記試験、実技試験、小テスト(実力試験)、授業態度、日常態度全てにかんがみて判断する。
授業の進め方	教科書を中心に進める。
注意 (学生に望むこと)	日常における予習復習の励行。授業に関係なしにどん欲に様々な医療知識を吸収しようとする姿勢を期待する。
テキスト・参考書	柔道整復学 理論編

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	高橋 武彦 (実務経験のある教員)	学科・年	柔道整復医療科 2年
科目名	手技療法Ⅱ	曜日・時間	木曜日 9:10～

【授業概要・目標】
軟部組織損傷の基本的な知識、治療に必要な鑑別法を習得する。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	身体診察・計測
2	関節可動域
3	頸部-1
4	頸部-2
5	肩部-1
6	肩部-2
7	肘部-1
8	肘部-2
9	前腕・手指
10	頸・上肢：鑑別法-1
11	頸・上肢：鑑別法-2
12	頸・上肢：鑑別法-3
13	頸・上肢：鑑別法-4
14	実技試験
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	腰部-1
2	腰部-2
3	股関節・大腿部
4	膝-1
5	膝-2
6	下腿部・足部-1
7	下腿部・足部-2
8	腰・下肢：鑑別法-1
9	腰・下肢：鑑別法-2
10	腰・下肢：鑑別法-3
11	症例検討-1(上肢)
12	症例検討-2(上肢)
13	症例検討-3(上肢)
14	実技試験
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	口答・実技・筆記試験、その他、出席、授業態度、レポート提出の総合評価とする。
授業の進め方	授業のテーマを予習(ノート作成)、授業でポイントを確認しながら実技の習熟度を高めていく。
注意 (学生に望むこと)	積極的に課題に取り組み、構造や関節の動きを理解すること。繰り返した実技練習に取り組むこと。
テキスト・参考書	柔道整復学理論編・実技編 問診診察ハンドブック 解剖学教科書

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

ノ下ハ「」ヲ付言

本坦正後于性端欄「大イ欄、同形形茶ハ「」ノ下、肝則于秋付言

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	長岡 靖彦	学科・年	柔道整復医療科 2年
科目名	一般臨床医学 I	曜日・時間	木曜日 10:50～

【授業概要・目標】
 診察の概要について、その方法・内容の学習し、柔道整復臨床において注意すべき病態・状態を把握できるようにする。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	診察の意義、医療面接
2	視診① 意義と方法、体型・体格、体位・姿勢、
3	視診② 栄養状態、精神状態
4	視診③ 異常運動、歩行
5	視診④ 皮膚の状態
6	視診⑤ 頭部・顔面、頸部
7	視診⑥ 胸部、腹部、背部・腰部
8	視診⑦ 上肢
9	視診⑧ 下肢
10	打診
11	聴診
12	触診① 意義、皮膚・皮下組織、筋肉
13	触診② 骨・関節、胸部、腹部、リンパ
14	予備日(復習)
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	生命徴候① 体温
2	生命徴候① 体温
3	生命徴候③ 脈拍、呼吸
4	感覚検査 総論、表在、深部、複合他
5	反射検査① 総論 意義 表在反射
6	反射検査② 深部反射、病的反射
7	反射検査③ クローヌス 自律神経
8	臨床症状① 発熱 出血傾向
9	臨床症状② リンパ節 意識障害
10	臨床症状③ チアノーゼ、浮腫
11	臨床症状④ 関節痛
12	臨床症状⑤ 肥満、やせ
13	検査法
14	予備日(復習)
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	定期試験の結果をもってその学期の評価とする。
授業の進め方	プレゼンテーションと板書を活用し講義形式で行う。
注意 (学生に望むこと)	予習をすること(最低でも教科書を読み、判らない用語を調べる)。復習用プリントを配布するので、活用すること。
テキスト・参考書	『一般臨床医学』

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	大沼 英子	学科・年	柔道整復医療科 2年
科目名	病理学概論	曜日・時間	前期) 金曜日 9:10～ 後期) 金曜日 10:50～

【授業概要・目標】

疾患の原因・経過及び症状をトータルな生命現象として理解し、細胞・組織・臓器・物質レベルで学習することで病的状態の分類・概論の基礎を習得する。さらに、各臓器に関する病変を病理学的に学ぶことで臨床医学と関連させた疾患の認識と理解を深めることを目的とする。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	授業概要・病理学とは
2	疾病の一般・ 病因論1(病因の一般・内因)
3	病因論2(内因)
4	病因論3(内因)
5	病因論4(内因)
6	病因論5(内因)
7	病因論6(内因)
8	病因論7(内因)
9	細胞障害1(定義・萎縮・変性)
10	細胞障害2(代謝障害と疾患)
11	細胞障害3(老化・壊死・死)
12	循環障害1(血液の循環障害:充血・ うっ血・虚血)
13	循環障害2(出血・止血・血栓症)
14	循環障害3(塞栓症・梗塞、 リンパの循環障害)
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	進行性病変1
2	進行性病変2
3	炎症1
4	炎症2
5	炎症3
6	免疫1
7	免疫2
8	免疫3
9	腫瘍1
10	腫瘍2
11	腫瘍3
12	腫瘍4
13	先天性異常
14	運動器の病理
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	定期試験(筆記試験)により基本的に評価を行うが、小テスト、出席および授業態度などを考慮し、これらを平常点として加味して総合的・相対的な評価を行うものとする。
授業の進め方	教科書とスライドおよび配布プリントを用いて授業を進める。必要に応じ、小テストを適宜行う。
注意 (学生に望むこと)	病理学を学ぶ過程で、関連する解剖学的、生理学的な内容を復習、確認し、全体として理解を深めることにつなげてほしい。
テキスト・参考書	病理学概論 第3版(医歯薬出版) 参考書等については、必要に応じて説明する。

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	和泉 博之	学科・年	柔道整復医療科 2年
科目名	生理学Ⅲ(半期)	曜日・時間	前期) 金曜日 10:50～

【授業概要・目標】

高齢化社会を迎え加齢による身体機能の低下を学ぶことは重要である。加齢による身体機能の低下は中枢神経、末梢神経、免疫系、感覚系、骨系など多岐に渡る。これらを正常生理機能と比較しながら学ぶ。さらにスポーツを行うことにより、加齢による機能低下の抑制を学ぶことによりスポーツの重要性について学ぶことは重要である。

＜前期＞		＜後期＞	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	老化一般論(健康長寿、加齢に伴う身体諸機能の変化)	1	
2	加齢と神経系の変化-1(高次機能障害、認知症;パーキンソン病、アルツハイマー、失語症、失認等)	2	
3	3:加齢と神経系の変化-2(脳卒中、筋萎縮性側索硬化症、ギラン・バレー症候群等)	3	
4	加齢と循環系の変化(高血圧、心筋梗塞、狭心症)	4	
5	加齢と運動系の変化(神経・筋疾患)	5	
6	加齢と免疫系の変化(リウマチ、膠原病等)	6	
7	加齢と感覚系の変化(聴覚、平衡感覚、白内障、緑内障、近視、遠視等)	7	
8	加齢と骨系の変化(骨粗鬆症)	8	
9	脊髄損傷(自律神経過反射)、心疾患、糖尿病	9	
10	神経組織とスポーツ	10	
11	呼吸器系体液・血液とスポーツ	11	
12	循環器系とスポーツ	12	
13	内分泌系とスポーツ	13	
14	骨格筋系とスポーツ	14	
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)	◆	
15	解説	15	

評価方法	定期試験試験と各単元による小テスト
授業の進め方	板書を基本にパワーポイントのスライドやDVDビデオの視覚教育を用いて講義予定
注意 (学生に望むこと)	これまで学んだ生理学、解剖学の教科書を持参すること
テキスト・参考書	

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	上田 耕介	学科・年	柔道整復医療科 2年
科目名	社会学	曜日・時間	金曜日 13:10～

【授業概要・目標】

社会学の基礎概念を学び、それを医療と関連づけて考えることにより、医療者の社会的責任を自覚する。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	社会学とはどんな学問か
2	社会学が生まれた背景
3	前近代社会、近代社会、現代社会
4	社会学の基礎概念(1)
5	社会学の基礎概念(2)
6	社会学の視点(1)
7	社会学の視点(2)
8	保健医療と社会学(1)
9	保健医療と社会学(2)
10	健康と病気のとらえ方の変遷
11	新しい健康観・病気観
12	社会的格差と平等
13	社会的格差と健康(1)
14	社会的格差と健康(2)
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	働き方と健康(1)
2	働き方と健康(2)
3	患者の視点
4	病の語り
5	患者—医療者関係
6	家族の介在
7	医療専門職
8	性とジェンダー
9	家族と健康
10	福祉国家と保健医療(1)
11	福祉国家と保健医療(2)
12	福祉国家と保健医療(3)
13	福祉国家と保健医療(4)
14	現代医療の課題
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	前・後期末に筆記試験を行い評価する。
授業の進め方	教科書に沿って講義を行う。
注意 (学生に望むこと)	普段から社会のことに興味を持って欲しい。
テキスト・参考書	『系統看護学講座 基礎分野 社会学』

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	石垣 寛高	学科・年	柔道整復医療科 2年
科目名	医療概論(半期)	曜日・時間	前期) 金曜日 14:50~

【授業概要・目標】
 医学の歴史の概要について知る。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	オリエンテーション
2	西洋医学史-01
3	西洋医学史-02
4	西洋医学史-03
5	西洋医学史-04
6	中国医学史-01
7	中国医学史-02
8	日本医学史-01
9	日本医学史-02
10	日本医学史-03
11	日本医学史-04
12	総合
13	総合
14	総合
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価・点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
◆	
15	

評価方法	筆記試験、出席、授業態度、課題提出の総合で判定する。
授業の進め方	講義、作業
注意 (学生に望むこと)	毎回内容の予習と復習をしっかりとすること。
テキスト・参考書	特になし

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	専任教員	学科・年	柔道整復科2年
科目名	臨床実習①	曜日・時間	火木・3・4時限

【授業概要・目標】

①患者と適切なコミュニケーションがとれる。②施術準備ができる。③基本的な事項について診療録に記載ができる。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	臨床実習前授業（Ⅰ）	1	臨床実習（15）
2	臨床実習前授業（Ⅱ）	2	臨床実習（16）
3	臨床実習（1）	3	臨床実習（17）
4	臨床実習（2）	4	臨床実習（18）
5	臨床実習（3）	5	臨床実習（19）
6	臨床実習（4）	6	臨床実習（20）
7	臨床実習（5）	7	臨床実習（21）
8	臨床実習（6）	8	臨床実習（22）・振り返り
9	臨床実習（7）	9	
10	臨床実習（8）	10	
11	臨床実習（9）	11	
12	臨床実習（10）	12	
13	臨床実習（11）	13	
14	臨床実習（12）	14	
◆	臨床実習（13）	◆	
15	臨床実習（14）	15	

評価の方法	知識の習得・身だしなみ・参加意欲などを総合的に評価する。
授業の進め方	臨床に必要な知識の習得、施術見学、環境整備、施術準備（補助）などを中心に行う。
注意（学生に望むこと）	積極的に実習に参加してもらいたい。
使用テキスト・参考書	なし

2020年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	専任教員	学科・年	柔道整復科2年
科目名	臨床実習②	曜日・時間	火木・3・4時限

【授業概要・目標】

①患者と適切なコミュニケーションがとれる。②施術準備ができる。③基本的な事項について診療録に記載ができる。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	臨床実習前授業（Ⅰ）	1	臨床実習（15）
2	臨床実習前授業（Ⅱ）	2	臨床実習（16）
3	臨床実習（1）	3	臨床実習（17）
4	臨床実習（2）	4	臨床実習（18）
5	臨床実習（3）	5	臨床実習（19）
6	臨床実習（4）	6	臨床実習（20）
7	臨床実習（5）	7	臨床実習（21）
8	臨床実習（6）	8	臨床実習（22）・振り返り
9	臨床実習（7）	9	
10	臨床実習（8）	10	
11	臨床実習（9）	11	
12	臨床実習（10）	12	
13	臨床実習（11）	13	
14	臨床実習（12）	14	
◆	臨床実習（13）	◆	
15	臨床実習（14）	15	

評価の方法	知識の習得・身だしなみ・参加意欲などを総合的に評価する。
授業の進め方	臨床に必要な知識の習得、施術見学、環境整備、施術準備（補助）などを中心に行う。
注意（学生に望むこと）	積極的に実習に参加してもらいたい。
使用テキスト・参考書	なし

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表（柔道整復医療科）

科目名	学年	授業時間数	教員名	実務経験	実務内容
解剖学Ⅱ	1年次	60	小原 賢	5年以上	接骨院（整骨院）に勤務経験をもち、現在も付属鍼灸院で鍼灸の臨床を行っている。
柔道整復基礎理論Ⅱ	1年次	60	石垣寛高	10年以上	病院に勤務経験をもち、現在も付属鍼灸接骨院で接骨の臨床を行っている。
柔道整復基礎理論Ⅲ	1年次	60	小原 賢	5年以上	接骨院（整骨院）に勤務経験をもち、現在も付属鍼灸院で鍼灸の臨床を行っている。
柔道整復応用理論Ⅳ	2年次	60	石垣寛高	10年以上	病院に勤務経験をもち、現在も付属鍼灸接骨院で接骨の臨床を行っている。
手技療法Ⅱ	2年次	60	高橋武彦	20年以上	病院・接骨院（整骨院）に勤務経験をもち、現在も付属鍼灸接骨院で接骨の臨床を行っている。
柔道整復応用実技Ⅱ	3年次	60	石垣寛高	10年以上	病院に勤務経験をもち、現在も付属鍼灸接骨院で接骨の臨床を行っている。
	合計時間数	360			